

ブルゴーニュの20世紀を振り返る

横山 弘和



横山 弘和 / よこやま ひろかず
1930年兵庫県生まれ。65年ホテル・オークラ(東京)入社。
95年に退社するまでソムリエとして30年間一貫してワイン
関係業務に従事する。88年11月ブルゴーニュ・シュヴァリエ・
デュ・タートヴァン(利き酒騎士)叙任。現在在佐高会ヴィ
タリテ事業部在籍。

西暦2000年の年が明け、いよいよ新ミレニアムの始まりです。ここであらためて、ワインを飲みながら1900年代を振り返ってみましょう。繁栄の時代であったと同時に戦争の世紀とも言われたこの100年。戦争のない平和な世界になることを祈りつつ、ワインの記憶をたどってみたいことにします。

第二次世界大戦は、1939年9月イギリス、フランス両国の対ドイツ宣戦によって始まりました。1940年6月、フランスは国内に侵攻したドイツ軍に降伏し、4年以上にわたるナチスの占領時代を体験します。その間、各地のワイン産地では様々な被害や不幸な出来事が起きました。特にドイツと国境を接するアルザス地方では、退却するドイツ軍と追撃する連合軍との間で激しい戦いが繰り広げられ、ぶどう畑は徹底的に痛めつけられました。同時に戦場となったシャンパーニュ地方でも、大きな被害が出ました。ドイツ軍は上等のシャンパンを戦利品として大量徴発し、貨車で本国に運び込んだりもしています。

Operation Anvil^{からど}(鉄床作戦*) : 連合軍によるブルゴーニュ解放
* 厳治居が使う作業台

1944年8月、地中海沿岸サン・ラファイエルに上陸した連合軍部隊は、ドイツ軍占領下のフランスを南から解放し、その6月すでに北のノルマンディーに上陸しパリを解放しつつあったアイゼンハワー將軍率いる部隊とドイツ軍をはさみ打ちにするため北に向かいます。どういわけかOperation Anvil(鉄床作戦)と名づけられたこの作戦を実行する部隊の行く手には、シャトー・ヌフ・デュ・パーズ、タヴェル・レルミタージュ、シャトー・グリエ、コート・ロティと、美食家であればだれがでるようなコート・デュ・ローヌの銘醸ワインの名前が連なります。更にその北にはなんと、世界のワイン文化の中で燦然と輝くブルゴーニュ・ワインの故郷、コート・ドール(黄金の丘)が広がるわけです。あと僅かで秋のぶどう収穫が始まろうとするこの時期、心配されたのは軍隊の通り道となるぶどう畑の運命です。もしドイツ軍と連合軍がかの有名なモンラッシュやクロ・ド・ヴージョ、そしてロマネ・コンティなどの畑の中で一戦を交えたら大変なこ

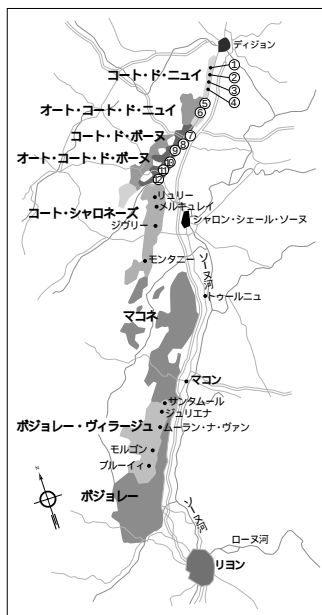
とになります。しかし、大方の連合軍を指揮する偉い軍司令官たちはそんなことに関心をもちません。何よりも早くナチスを攻撃して追い払い、先に進むのが先決です。もしそうなら、ブルゴーニュの偉大なぶどう畑の運命はどんなことになるでしょう。

しかしここに、一人の優れた將軍が登場します。それは新しく編成された自由フランス陸軍のド・モンサベール將軍(Général de Montsabert)でした。彼にとって、今回の作戦で一番重要なのはフランス国の将来で、加えて大のワイン愛好家である彼にとって、ワインセラーの充実は大きな関心事の一つでした。將軍は従軍記者たちに、このOperation Anvilを、人類にとって偉大な芸術作品であるブルゴーニュのぶどう畑を破壊から救うための作戦と考えている、と話しています。実際、連合軍の進撃でも、アメリカ陸軍は主に東部のアルプス山岳地帯を北に進み、自由フランス軍はワイン産地の多いローヌ河西岸の攻略を受け持ちました。そして戦略も順調に進み、フランス軍は問題なくマコネの近くまで兵を進めることができたのです。

ここで、ド・モンサベール將軍の情報將校たちは状況の把握に苦労します。ドイツ軍は間違いなく北に向かい撤退を続けている。しかし、どうしてもその速度がのろのろと遅く、コート・ドールの手前になる町、シャロン・シュール・ソーヌ付近で足踏みをしているらしい。もしこれが事実なら、まずい状況です。何故なら、このままフランス軍が北進をすれば、どうしても名だたるワイン街道のどこかで衝突することになる。仮に、ディジョンに到着する前に一戦を交えることになれば、大砲や戦車を使う機械化戦により、多くの特級、一級ぶどう畑が壊滅的な損害を受けることになる。そんなことが起きたら、祖国フランスの国民はどんなに怒ることだろう、絶対に許してはもらえないだろう、と頭を抱えます。とにかく1870年の普法戦争*の再現は絶対に避けなければなりません。(* 1870年のフランス-ドイツ間の戦争で、ニュイ・サン・ジョルジュ周辺で大砲の玉が激しく飛び交い、ドイツ軍がラ・タージュ、ロマネ・コンティ、そしてリッシュパールなどの畑を荒らして進軍した)

その頃野戦司令部には、様々な情報が集まってきました。ドイツ軍の有名なタイガー戦車が次々とムルソー村に配置されている、シャサーニュ・モンラッシュでは大爆破の準備が進められている、ポーヌの町の背後には強力な予備軍が集結中である。大佐参謀は軍事作戦地図とは別にフランスのぶどう栽培地図を広げ、最悪の場合を想像します。シャンボール・ミュジニーの畑が空爆を受け、注意深く手入れされたヴォーヌ・ロマネのぶどうの樹を倒しながら戦車が進む。そして見えるのは、黒煙を高く上げながら燃え落ちるシャトー・クロ・ド・ヴージョ。そのときです。これまで何度もフランス軍を救ってきた、ドラマチックで思いがけない幸運が起きます。作戦室のドアを開けて入ってきた若い連絡將校が敬礼をし、「大佐殿、すばらしいニュースです。我々は敵軍の守備の弱点を見つけました。ドイツ軍はすべて、品質の低いぶどう畑に陣を敷いています」と報告します。結局これがこの作戦の大きな転換期になります。報告を受けたド・モンサベール將軍は迷わず、ただちに攻撃を命じました。攻撃は見事に成功し、ドイツ軍はものの24時間以内にブルゴーニュから追い立てられるように敗走していったのです。

その後、將軍はジープに乗り、何台もの味方の戦車を追い越しながら国道74号線を北走します。見える景色は決して美しいものではありません。崩壊して落ちた橋や破壊された民家が続きます。しかし、西方に広がる丘陵コート・ドールに被害はなく、誇り高げにやさしい秋の日光を浴びた畑が並んでいます。不幸な戦争の中で、この国家的というより世界的財産といえる黄金の丘を守るという目的を達した満足に、將軍の目は喜びを隠せず輝いていました。この後しばらくの間、従軍記者たちはポーヌやニュイ・サン・ジョルジュの町でワイン・セラーに招かれ、信じられないほどの美味しいワインでご馳走攻めにあひます。そして、ドイツ軍の厳しい占領下、どうやってこのような大量の高級なワインが摘発や略奪を免れて存在するのかと不思議に思います。これについては過去の失敗から学んだ教訓を生かした、ブルゴーニュのワイン商人の智恵がありました。1914年から1918年まで戦われた第一次世界大戦の苦い失敗の経験があった



ブルゴーニュ Bourgogne A.O.C. ワイン地域図

からです。このとき、思いがけなく早くブルゴーニュに侵攻したドイツ軍に、ワイン商人は十分な対処をする時間がありませんでした。ドイツ軍が近くに迫ったのを知って慌ててワイン商人は、とっさに大事な特級、一般ワインを町はずれの大きな池に運んで水中に沈めて隠しました。ドイツ軍が到着して1日2日は何事もなく、うまくいったと安心した3日目、池の周りをパトロール中のドイツ兵が水面に浮かぶたくさんのワイン・ラベルを発見します。こうして大事なワインは全部没収されてしまったのです。そこで第二次世界大戦が始まったときに、ワイン商人たちは地下のセラーの奥に上等のワインを集め、その一角を壁で塗りつぶしてワインを隠しました。その代わりに品質の低いワインに高級ワインのラベルを貼り、ワインの知識の乏しいドイツ兵を欺き大事なワインを見事に守り抜いたのです。

その頃のボジョレー

今こそボジョレーは世界的に有名な赤ワインですが、1944年以前のボジョレーは全くの地方の田舎ワイン。そのほとんどがすぐ南にあるフランス第2の大都市リヨンの、主にピストロやカフェでグラスやカラフ・ワインとして消費される極めて安価な大衆ワインでした。これらが他の土地に出荷されることは少なかったのです。その飲まれる量の多さを有名な作家であるLéon Daudetは、リヨンには3つの河が流れている。スイスから流れて地中海に注ぐ大河ローヌ河、北からリヨンに流れ込みローヌと合流するソーヌ河、そして3つ目はボジョレーという赤

- ① ジュヴレ・シャンベルタン
- ② モレイ・サン・ドゥニ
- ③ シャンボール・ミュジニー
- ④ グージョ
- ⑤ ヴォヌ・ロマネ
- ⑥ ニュイ・サン・ジョルジュ
- ⑦ アロックス・コルトン
- ⑧ ボーヌ
- ⑨ ボマール
- ⑩ ムルソー
- ⑪ ビュリニー・モンラッシェ
- ⑫ シャサーニュ・モンラッシェ
- ⑬ マコン
- ⑭ マンタニョー

い河、とおもしろく書いています。

第二次世界大戦が勃発してフランスがドイツに降伏し、国は大きく2つに分けられました。北はドイツ軍の直接占領下に入り、南は新しく樹立されたベタン元帥の傀儡政権、ヴィシー政府の支配下となります。そこで、当時パリに住んでいた文学者、音楽家、映画関係者、自由主義者などいわゆる文化人たちはナチスの支配を嫌い、多少とも自由があるヴィシー政府統治下のリヨンに移り住んでいきました(その後の1942年11月にはフランス全土がドイツ軍の占領下に入ります)。この町で彼らは初めて、リヨンの北で造られるボジョレーというかわいい名前の、軽くて気取りがなく、懐も余り痛まない赤ワインと出会います。おそらく彼らは、愛する故国が他国の軍隊に占領され、ままならない毎日を、ボジョレーを飲むことで多少とも気を紛らせて過ごしていたのでしょう。1944年6月、待ちに待った連合軍がノルマンディーに上陸を果たし、8月25日パリは解放されます。地方に逃れていた市民たちはパリに戻り始めます。リヨンで暮らした文化人たちは例外ではありません。しかし彼らは首都に帰るとき、リヨンで覚えたボジョレーを飲む楽しみをいっしょに持ち帰ることを忘れませんでした。このワインはまたたく間にパリっ子たちに気に入られ、パリの街はドイツ軍に代わってボジョレーに占領されてしまったのです。ボジョレーはその後ヌーヴォーの人気も加わり、世界に知られるワインとなります。わが国でも、毎年11月の第3木曜日最も早く飲めるその年の新酒として定着し、ワイン愛好家の人気を集めています。皆さんは1999年のヌーヴォーをどのように楽しみましたか。

20世紀の100年間は、人類の生活を著しく豊かで便利なものにしました。世界のワイン産業も例外ではなく、ぶどうを栽培する方法も、ワインを造る技術も大きく変革しました。しかし機械に頼って手数が省けると喜んでるのは間違いです。最終的に優れたワインを造るのは、生産者の誠意、熱意、製品に対する誇りです。年を経ても良いワインを造るのに近道はありません。いよいよ西暦2000年を迎え、来る21世紀が人類にとって豊かで美しいものであることを願います。

ブルゴーニュへ、ようこそ
中世がいまだに息づいている
ブルゴーニュへいらつしやいませんか。
極上の銘酒を生み出すぶどう畑、
グルメレストランの数々、中世そのままの街なみ、
美しく広がる大地や、小さな村々、
豊かな生命力と、はたのぬくもりを感じる地方、
それがブルゴーニュです。

Château de Chailly / シャトー・ドゥ・シャイリ



お問い合わせ
(株)産商会ヴィタリテ事業部 担当: 岩沢
Tel. 03 3582 5087